

# ネパールの旗の下

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

ネパールは南はインド、北は中国という二つの大国に挟まれた小さな山国だ。ちょっと前まで王制であったが、今は連邦民主共和国である。人口は2,800万人、面積は147,181km<sup>2</sup>、東西に長く800km、南北は90~230kmになる。海拔は南の70mからエベレストの8,848mと起伏に富んでいる。民族は100以上もあり、アーリア系、蒙古系と多種多様である。そのため文化、習慣の違いや言葉も民族独自のものとなる。方言とはまったく違うので、外国語のようだ。

私が幼い頃のネパールの首都カトマンズは小さな町だった。町の環状線であるリングロードもできておらず、町中には畑も沢山あった。近所の違う民族の子供たちともよく遊んだ。どうやって意思疎通を図っていたのか、就学前ではあったが、何となく覚えたネパール語を使っていたのかもしれない。

ネパールは民主化後、多くの学校が作られた。教育は義務教育制度ではないので、就学できるかどうかは各家庭の経済力や親の教育への理解度によるところが大きい。報道の自由も認められ、ネパール語は幅広く使われ始めている。

一昔前までは民族間で共通の言語を使うことができず意思疎通もできなかった。また当時はその必要もなかった。今は学校で国語であるネパール語を学び、英語も学び、テレビやラジオから聞くことができる。それらの言語は広く伝わっていている。しかし、今でも山一つ越えると違う民族の文化、習慣に出会い、近代教育を受けられなかった年配者とは話を交わすことができない。通訳人が必要となる。彼らは今でも昔のままの生活をしていて、それは今でもネパールの田舎の風景である。

国を一つにまとめるにはネパール国民として、同胞としての意識が必要だ。多様さを普通のこととして受け入れる広い心、それぞれを尊重する心遣い、想像力は必須

である。

国旗は国として成り立つ上で必要不可欠のものである。国民を統一するシンボルでもある。



世界には197ヶ国の国旗がある。その中でもネパール国旗の形状は唯一無二ものだ。

1962年12月16日

ネパール国旗として制定された。

ネパールには紀元前から王朝があった。隣国を占領しながら自国領を拡大していった時代があった。その時代、高く掲げられた旗の下に戦士が集まった。統一のシンボルとして、勇気を奮い立たせるものとして、遠くからも見える旗は王の軍隊をまとめた。王たちは自分たちを太陽族とか月族とか名乗った。それぞれの旗は正方形、長方形、三角形と様々だった。現在のネパール国旗は200年ほど前のプリティビー・ナラエン・シャハ王が定めたといわれている。しかし国旗として実際に憲法上、定められたのは1962年12月16日である。

国旗は二つある三角形の上の部分に月が描かれ「心と知識の象徴」を、下の部分に太陽が描かれ「永遠のエネルギーと力の象徴」を表している。それは、太陽と月がある限り、「ネパール国よ、永遠なれ」と謳っている。国旗全体を覆う赤色の中に白い月と太陽が描き出されている。国旗の三角形はヒマラヤ山脈を表し、周りの青い縁取りは空と海を表し、また平和も象徴している。三角形の形は、多くの寺院の入口には昔から三角形の旗があったことに由来している。ベースになっている赤はしゃくなげの花の色で、ネパール国が常に全身全霊で歩むよう勇気づけるものとなっている。